

第3回諮問検討小委員会 議事録

平成28年1月14日

13:00～

○出席者 公運審委員

山田 治子（東清）、青木 健（岩根）、古藤田 憲之（鎌足）、澤邊 賢司（岩根西）
松尾 玲子（富来田）、元木 榮（金田）

事務局

原（清見台）、渡邊・星野・栗本（中央）、稲木（岩根）、松本（八幡台）

○記 録 栗本（中央）

1 第2回までの検討結果について

2 答申案の作成について ～素案をもとに検討～

青木 それでは答申の素案について、検討に入ります。「1 公民館をとりまく地域の現状と課題」についてお気づきの点や意見はありますか。

古藤田 資料2 ページ1(1)の中にある「これまで地域の社会教育や様々な活動を・・・衰退しています」というのは、子ども会や青年団といった、地域の社会教育団体が衰退しているという意味で、サークル活動については別だと考えてよいのか。地域の団体とサークルとは分けて考えたほうが良いと思う。

星野 サークルとは別で、地域で活動する団体のことを指している。

松尾 「1(1)地縁を基盤としたつながりの希薄化」と書いてあるので、意味は通じると思う。

星野 サークルの問題は後で出てくる。文章の中で分かりやすい表現に変えるのが良いと思う。

青木 4 ページのまちづくり協議会についての記述で、「現在、岩根西、富来田、西清川、岩根地区で進められている」とあるのは、「岩根地区」ではなく、「岩根東地区」。

古藤田 「(3)地域を活動基盤とする公民館の抱える課題」の中に、施設的な課題は盛り込まなくて良いのか。例えば避難所としての機能や、高齢者・障がい者に対するバリアフリーなど。施設的な課題も盛り込むならばこの項目だと思う。

原 公民館の老朽化に伴って、建て替えや改築が問題となったとき、単独の公民館ではなく、例えば学童保育の機能を含めるなど、地域の拠点として複合的な機能を持った公民館が望ましいといった内容を盛り込むこともできる。公民館に求める機能や、利用しやすい場所などに関する希望を取り入れることも可能ではないかと思う。

星野 大きなテーマが「公民館事業のあり方」なので、事業を展開する際に必要な公民館の機能について、関連して述べることはできる。

原 施設的な課題に関連して、公民館のエリアについて、例えば請西地区をどうするか、という課題もある。

星野 人口が増えている請西南地区など、文京公民館、桜井公民館にしても随分距離がある。新たに

公民館を作って欲しいといった要望も出てくるかもしれない。いずれにしても、施設に関する内容は、「1 公民館をとりまく地域の現状と課題」の中で触れるか、もしくは「4 充実した公民館活動を推進していくために」の中で触れるかになると思う。

古藤田 「課題」ということならば、「1 公民館をとりまく地域の現状と課題」の中に入れるべきだと思う。少し戻るが、1 ページ「はじめに」で、「この答申が、これからの木更津市の公民館に関する施策や事業に生かされることを期待します」については、公民館長への答申なので、「公民館の運営に」という文言を加えた方が良くと思う。また、「生かす」→「活かす」に。

青木 「今回の諮問の背景には～求められていることがあります」→「求められています」。

松尾 同じく、「今回の諮問の背景には…」という一文がとても長いので、再考すべき。また、「これまで公民館を利用したこのない」→「利用したことのない」。

渡邊 4 ページ「2 教育機関としての公民館の今日的役割」の中にある、「活動年数の長い利用者について…利用者の固定化が指摘されています」というのは、具体的な統計データがなく、根拠がない。公民館は特定のサークルが継続して使用しているため、ある程度利用者が固定化することは避けられないが、継続して学習することはとても良いことでもあると思う。公民館の掛け持ちについて、個人がいろいろな館に行って社会教育活動に参加するのも良いことの一つ。この文章が何を意図しているのかをもう一度考えるべき。同じ人が複数のサークルに入り、公民館を使っているのではないか、という声を聞いたことはあるが、実際にどれくらいの人がそうであるのかは分からないし、必ずしもマイナスのことではないと思う。言葉の選び方一つで、良いこともマイナスであるかのようにになってしまう。

山田 この文章のニュアンスでいうと、どちらかというとマイナスの表現になってしまっている。

古藤田 趣旨は、もっと利用者を広げていきたいということだと思う。例えば「リピーターの活動も多いが、さらに、これまで公民館を利用したことのない人にも広げていきたい」というような表現でも良いかもしれない。

星野 「固定化」という表現があまり良くないのかもしれない。同じ人が複数のサークルに入るとは悪いことではないが、新しい利用者への広がりはありません。先に述べた利用者の延べ人数も、実人数はもっと少なくなることが予想される。しかし、実際にサークルの構成員について把握しているわけではないので、根拠となるようなデータはない。

原 公民館の事業についても、例えばハイキングといった、今まで参加したことのない新しい人に来てもらうための事業もあるが、今まで参加したことのある人がまた参加することも多く、なかなか新たに広がらないという問題は確かにあると思う。流行り廃りといったら語弊があるかもしれないが、ニーズの移り変わりもある。かつては料理教室、いけばななど、3倍、4倍の倍率で申込みがあったが、現在は、自立支援、健康維持などのニーズが高い。各公民館の健康づくりに関する事業を渡り歩き参加している人もいるようだ。状況や学習要求は常に変化していくので、考慮しなければならない。

青木 人数が少なくても、新たな会員を募集しない閉鎖的なサークルもある。

原 会員が5～6人程度でも新たな募集をしないサークルの中には、これまで継続してきた関係性などがあるから、新しい会員を受け入れるのが難しいという人もいる。新たなサークルを立ち上げる際には、できるだけ門戸を広く、新しい会員も加入できるよう、開かれたサークル運営を

心がけて欲しい、とお伝えしている。

星野 「2 教育機関としての公民館の今日的役割」では、サークル活動のことだけでなく、公民館を今まで利用したことのない人を呼び込むために、具体的にどのように働きかけるか、といったことも含まれる。

山田 文化祭の視察に行っても、同じ人が複数の作品を出品している様子も見受けられる。

原 ヨガとか、健康系のサークルは、参加者数も問合せや見学に来られる方も多い。

松本 費用の問題もある。物作り系は材料費がかかるので、敬遠される傾向にある。

古藤田 「全公民館が共通の課題に取り組む健康講座をはじめ…」について、具体的な講座は「健康講座」だけの記載になっているが、他にはあるのか。

原 家庭教育学級や、高齢者学級はどこの公民館でも開催している。「健康講座」というのは、あくまでも「健康」に関するテーマを持った講座という意味。健康に関する講座は、健康推進課や地域の病院、地域包括支援センターなどの協力を仰ぎながら行っている。

古藤田 そのことと人材発掘のこととどのようにつながるのが見えない。

星野 学習するだけでなく、参加者が、学んだ内容を地域で活かしたり、地域の課題に結びつけることができるような学級、講座のあり方を考えていかなければならないという意味。岩根公民館の市民講座には、地域の区長さんが参加して地域の自治を考えたりということもあるようだ。

古藤田 事例などを入れて具体的に分かりやすくするのがよい。

星野 「2 教育機関としての公民館の今日的役割」に人材育成の必要性を述べ、「3 これからの公民館事業に求められるもの」の中で具体例として入れても良いと思う。ポイントは、公民館の講座や学級が、人材の育成につながる事が大切である、ということだ。

古藤田 障がい者に対する理解を深めることも教育機関として必要な役割であるので、文言として入れた方が良いと思う。

原 障がい者の公民館の利用については、「(4)長寿社会を豊に過ごすため、元気な高齢者の活動、活用を促進するとともに、地域の高齢化に対応した取り組みを推進」というより、「(1)子どもからおとしよりまであらゆる世代が自由勝手気軽に集い、学びあい、つながりを広げ深めていくための取り組みの推進」にいった方が良いかもしれない。

澤邊 (4)の中にある「また災害等に備え、体の不自由な高齢者をはじめ、支援を必要とする人々を地域で見守り、支えていくことも大きな課題です」というのは、公民館の役割としては、あまりにも大きすぎる問題であると思う。民生委員の活動では、要支援者を特定して災害時に支援に向かうよう試行錯誤している。1人の要支援の高齢者に対し、担当を4人ほど決めているが、有事の際4人全員が揃うかどうかは難しい。また、津波の際に、支援に向かった民生委員の方が亡くなったという話も聞いた。災害時の要支援者に関する問題は、非常に大きなものであると考える。災害時における公民館の役割については、バリアフリーなど、避難所としての受け入れ態勢を整えることが求められているのだと思う。

古藤田 地域づくりの一環として行う、ないしは、地域づくりのための教育を行う必要があるというニュアンスで書くほうが良いと思う。

渡邊 この箇所を取ってしまっても良いと思う。高齢者が長生きになるにつれ、老後の生活を豊かにするために、健康寿命の延伸ということが盛んに言われるようになってきた。そして、地域と

ある程度かわりを持っている高齢者ほど健康寿命が長い、というようなデータもある。そういった社会を構築するためには、公民館活動が有効であると考えます。災害関係でいうと、要支援の方に関しては、福祉施設での支援なども関わってくるので、おっしゃったように、大きな問題だと思う。

青木 「3 これからの公民館事業に求められるもの」、「4 充実した公民館活動を推進していくために」について、皆さんの意見はどうですか。

元木 送られてきた公民館だよりを見てみると、各公民館大きさがバラバラ。サイズを統一できないものか。B4は小さすぎて読みにくい。

渡邊 3月に第4回の公運審の定例会があるので、その席上で、サイズのことなどを取り上げていただければ、次の年度からA3版に揃えるよう全体で検討できる。一方、自治会に加入していないと、公民館だよりは配布されないが、さらに新聞を取っていない人も多くなってきているので、市の広報も配布されない。そうすると、情報を入手する手段も限られてくる。インターネットで閲覧できるといっても、スマホだけを持つ人も増えているので、容量の大きい広報などは、パソコンに比べ閲覧し難いと思われるので、情報が届かない。そういった人達へ向けた対策もしていく必要があるのかもしれない。

山田 回覧では、各家庭に一枚ずつ書類が行くようになってはいるが、挟まれた書類の3分の1くらいが残ってしまっているようだ。あまり残ってしまうのもったいない。公民館だよりはどうしても高齢者向けの内容が多くなってしまいう傾向にあるが、小さいお子様を連れた若い方が公民館へ来られているのを良く見かけるので、そういった世代の興味を惹くようなものをお知らせできたら良いのではないかと。以前、新聞を取っていない人に、近くの公民館に行くと、広報などがおいてあるので、参考にされてはいかがでしょうか、とお伝えしたことがある。公民館にそれがあるということすら知らない人がいる。そういう人達へはどうしたら情報を伝えることができるのかわからない。

古藤田 ホームページの閲覧数はどれくらいあるのか。また、公民館だよりをHPに掲載している館はあるのか。

星野 具体的な閲覧数は分からないが、あまり多くない。公民館だよりについては、掲載している館もあるが、ない館もある。

古藤田 スマホから見れるよう、公民館の行事などをHPに掲載すると、若い人も見るかもしれない。

元木 土足で上がれる公民館はどれくらいあるか。わざわざ土足を脱ぐのは煩わしいと、足が遠のくかもしれない。

星野 土足で上がれる公民館の方が多い。土足厳禁なのは、金田、中郷、東清、八幡台、富岡、岩根の5館。

渡邊 床は土足使用のタイルとそうでないものなどがある。雨の日など、土足使用でない床を土足で歩くと滑ってしまったりという危険もある。しかし、土足の方が利用しやすいことは確かだろう。

古藤田 資料の「3(2) 団体・サークルに対する積極的な活動支援」というのは、単にサークル活動を支援するというのではなくて、サークルが外に出て、日々の学習成果を活かせるような活動を支援するということか。

- 星野 中身はそうであるが、広い意味で、サークル活動の支援の一つとして捉えている。
- 澤邊 岩根公民館で地域交流フェスタを開催している。小学生の全学年に半日間、サークルの人が卓球や昔遊びを教えたりしている。みなさんからやりがいがあったという声を聞いている。日々のサークル活動だけでなく、その活動を活かしてやりがいを与えることはとても良いことだと思う。
- 古藤田 そうすると、3(2)の文章を少し変えた方が良いかもしれない。地域とサークルとの関わりというような意味合いを分かるようにするべきかもしれない。
- 星野 例えば、サークル会員の募集をするために、公民館に案内を掲示するといったような支援と、サークル活動の幅を広げ、地域で活躍できるようにサークルに働きかける支援とあり、「活動支援」といった言葉には、後者の支援も含まれている。細かい文章の言い回しについては、また後で検討することとしましょう。
- 渡邊 サークル自体の支援（高齢化や人数減少など）と、社会貢献をしていくために、公民館が地域とサークルをつないでいく支援とがある。
- 松尾 大正琴のサークルが馬來田小学校にできたようだ。月に1、2回小学校に教えに行っているようだ。今後、小学生が文化祭に参加できたら良いと思う。サークル活動も、自分たちだけが楽しむのではなく、活動を広げていけたらと思う。
- 渡邊 大正琴の件について補足ですが、先ほど話に出た岩根小学校の事例で、それを担当していた先生が馬來田小学校に異動になり、馬來田小でもそのような活動ができれば良いと思い、始めた経緯がある。学校支援ボランティアの方が以前から行っていた活動と協同していく形で、岩根小学校の地域交流フェスタのような活動が馬來田小でも始まることとなった。その際に公民館がサークルに声をかけ、会員に協力を仰いだ。
- 松尾 せっかくの活動なので、次はさらに一歩進んで、小学生に公民館まつりに出てもらい、一緒に演奏などができたら良いと思う。また、サークルの方から、小学生からエネルギーをもらえるので、年に一回だけでなく、できるなら何回か定期的に子ども達と関われば良いね、という声を聞いた。サークルは自分達だけで楽しむのではなく、一歩前へ踏み込んで、活動を広げていくことが大切ではないか。
- 澤邊 何か地域の役に立ちたいけれど、どうして良いかわからないという人を呼んで、相談窓口のようなものを設け、その人の特技を活かせるような機会を作れないだろうか。
- 星野 公民館活動には、ボランティアの協力が不可欠だが、公民館ではボランティアが制度化されたものはない。学校には学校支援ボランティアがあり、生涯学習課ではユースボランティアやアフタースクールボランティアを事業でやっている。公民館全体でも、ゆくゆくはボランティア養成講座のような事業を行い、そこから、ボランティア登録制度なども考えていくことが必要になってくるかもしれない。今はそれぞれの館が地域で独自にボランティアを探して協力してもらっている状況である。ボランティアをやりたい人が気軽に参加できるような正式なしくみは現段階ではない。
- 古藤田 ボランティア養成講座はないのか。
- 星野 現在公民館ではやっていない。
- 澤邊 例えば相談窓口を設けるなど、ボランティアが気軽に来れるような仕掛けが必要。ボランティ

ア募集のチラシなどまわってくるが、新しい人はそんなに集まらないようだ。ちょっとやってみたいな、という人を気軽に来やすくするような方法を考えなければならない。

渡邊 学校支援ボランティアができたのは、木更津市にボランティアに対する素地があったからではないか、と考えている。公民館でサークル活動などが活発になったことなどから、基盤ができたのではないだろうか。ボランティアをやりたい人と、ボランティアの協力を求めている人をうまくつなげるような、コーディネーター的な役割がますます重要になってきている。

山田 学校支援ボランティアは特別な資格もいらず、誰でもできる。あいさつ運動など、声かけをとおして子ども達の状況も知ることができ、大変意味がある。公民館のボランティアも気軽にできればと思う。

星野 ボランティアにも広い意味があり、講師など、公民館で知識・技術をいかして行うボランティアと、見守りや清掃などの地域行事に積極的に関わり、リーダーとして皆を引っばるボランティアと2種類ある。後者は時間があるときはいつでも気軽に参加できるボランティア。地域づくりを進めていく上では、主として動いてくれるリーダー的なボランティアを発掘していかなければならない。また、公民館活動が活発なところは、自治会の活動が活発に行われている傾向にあるようだ。自治会を重視して、自治会の活動を活発にしていけることが、公民館活動の充実や地域づくりに関連していることについても、意見をもらいたい。

青木 それでは時間になりましたので、本日はここまでにしたいと思います。ありがとうございました。

3 その他（今後のスケジュール）

事務局より、次回以降の小委員会の日程について確認。

第4回諮問検討小委員会 日時：2月4日（木） 13：00～16：00

場所：中央公民館

内容：答申案の作成（つづき）

※第3回の修正原稿を事前に送付

第5回諮問検討小委員会 日時：3月2日（水） 13：00～16：00

場所：中央公民館

内容：答申案の作成（全体整理・修正）

※全委員に答申案を送付し、3月15日までに意見を求める。

第6回諮問検討小委員会 日時：3月18日（金） 13：00～

※大きな修正があった場合等、必要に応じて開催。

第4回定例会 日時：3月18日（金） 14：30～

※小委員長から山田委員長へ答申案（まとめ）を報告。

※公運審全員に諮り、修正意見等がなければ最終答申とする。

※山田委員長から館長に答申文を提出。